

見守りシステム のイメージ

- 目的**
- 入居者のQOLの向上
 - スタッフの働き方改革・生産性向上

IT化の背景

- 介護人材不足
- IT技術の進歩
- スタッフの職場環境改善
- 科学的介護システム「LIFE」の促進
- 感染症対策

スマートフォン・パソコン

見守りシステムのセンサーで検知したさまざまな情報を集約し、入居者の「現在の状況」をスマートフォンやタブレット、パソコンなどで「見える化」する。取得したデータを解析することで、「事故を未然に防ぐ」ことも可能



赤外線リモコン(エアコン制御)
居室のエアコンをパソコンやスマートフォンなどで操作できる

温湿度センサー
居室の温度と湿度がわかる

呼び出しボタン(ベッド)
緊急時などでスタッフを呼び出すときに使用する

ナースコール
スマートフォン等の通話機能付きモバイル端末で通話可能なコールシステム

居室内カメラ(天井)
起床や離床など居室内の状況が映像で把握できる。事故などの発生状況が記録できるので、振り返りが可能

呼び出しボタン(トイレ)
人感センサー(トイレ)
緊急時の呼び出しや一定時間動かない場合にアラートで知らせるなどの設定が可能

バイタル計測器
体温計、血圧計、パルスオキシメーターなどの測定数値を自動で記録する

ベッドセンサー
マットの下に設置したセンサーで、呼吸、心拍数、寝返りなどの睡眠の状態をリアルタイムに把握できる

人感センサー(天井)
温度や熱、超音波などで人の動きを感知するセンサー。離床や在室などがわかる

開閉センサー
ドアの開閉を感知し、居室の出入りを把握できる

見守りシステムのメリット

- 施設利用者**
- 科学的根拠のある介護サービスを受けることができる。
- 施設運営者**
- データ解析で、事故・病気の予兆を発見できる。
 - 作業を効率化してできた時間を、本来の仕事である介護に振り向けることができる。

見守りシステムとは、IT機器を活用して施設利用者の生活を見守るシステムです。各種センサーの情報を集約して、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で、施設利用者の状況を把握しているのが特徴です。

現在、見守りシステムを導入する介護施設が増えています。その背景には、深刻な介護人材不足があり、厚生労働省報道発表資料※)によると、2025年には、約32万人の介護人材が不足するとみられています。

厚生労働省が目指す「科学的裏付けに基づく介護の促進」もIT化を後押しします。介護施設は、科学的介護を促進するためのデータベース、LIFE(Long-term care information system For Evidence)へのデータ入力を求められています。

LIFEとは、介護データの提出、蓄積、フィードバックによりPDCAサイクルを推進し、ケアの質の向上を目指すもので、介護データはデジタルデータでなされるため、これもまたIT化促進の要因となっています。

「人手不足解消もそうですが、それ以上に、ご入居者の暮らしがよくなっていることを実感しています。介護施設へのIT化はメリットしかなく、今まで以上のケアを実践するために、もっと活用を広げていきます。」

これは、見守りシステムを導入した施設運営者の言葉です。介護現場のIT化の流れは止まりません。介護施設運営者のITへの理解や導入度合いが、施設選びの物差しのひとつになる時代がやってきます。

自宅での見守りサービス「ライフリズムナビ®+HOME」はP.8へ

※厚生労働省報道発表資料
第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について(2021年7月9日掲載)
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000207323_00005.html

介護の現場ではIT化が加速しています。
今後は、老人ホーム運営者のITへの理解や導入度合いが、ホーム選びの物差しのひとつになる時代がやってきます。

ライフリズムナビ®+Dr.の実際の管理画面の一例

[パソコン]



↑睡眠レポート
睡眠深度グラフからトイレなどの夜間の離床や中途覚醒を確認できます。浅い睡眠が続く場合は、心筋梗塞や脳梗塞などの予兆の可能性があります。

アラート設定
個々の入居者にあわせてアラートを設定することで、事故を未然に防ぐことができます。室温や起床時の体動、「動きがない」というアラート設定も可能です。

ベッドセンサーや人感センサー、温湿度センサーなどの情報を集約して入居者の状況を「見える化」します。直感的な管理画面で、現在の状況だけでなく、1日や1か月単位での変化も一目瞭然です。

[タブレット]



[スマートフォン]



ライフリズムナビ®+Dr.で使用されている主要センサー機器



エアコン制御センサー



温湿度センサー



人感センサー



ベッドセンサー



バイタル計測機器



見守りコール



呼び出しボタン



居室内カメラ

ライフリズムナビ+Dr.は、疲労と睡眠の専門家である医学博士の梶本修身先生とエコナビスタ株式会社(東京都千代田区)が開発した見守りシステムです。「体調不良の予兆は睡眠に現れる」ことに着目し、睡眠センサーを軸にさまざまなセンサーから取得した情報を統合して、施設に入居されている方の状況を「見える化」。パソコンやスマートフォンに表示される管理画面は直感的で、アラートをセットすることで事故を未然に防ぐことが可能です。また、過去の睡眠状況のデータを解析することで、睡眠の乱れの原因を推測することや病気の予兆を発見することもできます。スタッフの業務の効率化や負担軽減は、施設利用者のQOLの向上につながります。ライフリズムナビ+Dr.は、大手介護施設への導入が進んでいる、いま注目のシステムです。

ライフリズムナビ®+Dr.の導入施設で暮らすご入居者、ご家族のメリット

- 1 事故やトラブルのリスクを回避できる**
トイレを使用などの居室での移動の際に、転倒のリスクが下がります。目覚めの体動や起き上がったときにアラートで知らせるように設定することで、移動をする前にスタッフが介助に介入できます。
- 2 科学的根拠のあるケアを受けられる**
スタッフの感覚や経験則ではなく、データに基づいたケアを受けることができます。例えば、睡眠レポートから日中の活動量の低さが睡眠の乱れにつながっていると仮定して、活動量を上げる対応をとる、などがあります。
- 3 快適な住空間で暮らすことができる**
高齢になると暑さや寒さを感じる機能が低下します。介護施設内は適温に保たれていますが、快適さは個人によって異なります。入居者ごとに最適な環境を整えるために、温湿度センサーが活用されます。

導入施設

150 施設以上!

※ 2021年度末見込み

クラウド型高齢者見守りシステムとしてはトップクラスの介護施設導入実績

ライフリズムナビ®+Dr.
Life Rhythm Navi Plus Doctor



開発者の想い



東京疲労・睡眠クリニック
院長
梶本修身さん

かじもと・おさみ 医学博士。「ためしてガッテン(NHK)」、「ホンマでっか!?TV(フジテレビ)」などテレビ出演多数

見守りシステムで事故の予兆を見つけ、危険の芽を早期に摘む

もともとぼくがこのシステムを開発しようとしたきっかけは、一人暮らしとなった母親を見守りたいという想いからでした。誰でもそうだと思いますが、独居の家族は心配なものです。母親にライフリズムナビの利用者第1号になってもらい、製品開発がスタートしました。サービスを提供するエコナビスタ株式会社は、大阪市立大学医学部疲労医学講座から始まったスタートアップです。睡眠センサーを軸にした見守りシステムはとても効果的だという確信があり、今後は介護施設だけでなく、在宅にも広く使用していただきたいと考えています。

介護付有料老人ホーム

横浜エデンの園

夜間の尿失禁でお悩みのご入居者には、睡眠レポートを確認し、夜の過ごし方を改善します。

運 営母体を同じくする聖隷横浜病院が隣接していることから、医療ニーズの高い方やターミナルケアのご入居者も多くいらっしゃいます。ご入居者には「できないこと」に意識を向けるのではなく、楽しく快適に毎日を過ごしていただきたいと思っています。そのために、ライフリズムナビ+Dr.で取得したお部屋の環境や睡眠の状態などのデータを確認し、仮説を立てながら改善に向けた行動をとっています。例えば夜間の尿失禁が増えてしまったご入居者の場合、睡眠レポートで夜間の状況を確認し、就寝前にトイレ誘導すれば防げるのではないかと仮説を立てます。トイレ誘導が難しいならばオムツ着用をご提案するなど、その方にとって最善の方法を探るようにしています。ベッドセンサーで呼吸数やバイタルサインも確認できますので、これからは最期のお看取りの瞬間に立ち会う機会も増えるかもしれません。ご入居者がここで幸せに過ごされることに全力を注ぐのはもちろん、旅立たれるまでの様子をしっかりとご家族にお伝えできるようにしていきたいと思ひます。

ライフリズムナビ+Dr.はあくまでも道具のひとつです。「支えたい」という心が大切です!



横浜エデンの園 園長 小久保ゆきさん



笑顔の絶えない暮らしを目指す。左はライフリズムナビ+Dr.の運用を任されているスタッフの岡田さん。



コロナ禍で密を避けながら歌うご入居者。さまざまなレクリエーションの中でも、月2回の「歌の会」は好評

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園
所在地 〒240-0023 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町207
アクセス JR横須賀線「保土ヶ谷」駅から徒歩13分
0800-111-1165 (平日)※通話無料
[入居時費用] 128.16万円~2,220万円
[月額利用料] 248,240円~575,140円
●開設日/平成22年4月1日 ●権利形態/利用権方式 ●支払方式/選択方式 ●介護保険/横浜市指定介護保険
特定施設(混合型・介護予防) ●事業所番号/1470601475
●入居時要件/要支援、要介護 ●介護居室/全室個室
50室(定員50名)、面積22.50㎡~24.38㎡ ●介護体制/2:1以上 ●事業主体/社会福祉法人聖隷福祉事業団
ウェブサイト



事故の抑制やより良いケアを実践するために、取得したデータから科学的根拠のある対策が立てられます。また、ご入居者の性格や行動パターンなどの個別性が、スタッフの感覚ではなく、データに基づいて把握できるようになります。既存の介護記録システムにも対応しているので、厚生労働省の「LIFE」への入力も互換性の点で心配はありません。

介護付有料老人ホーム

チャームプレミア 柿の木坂

夜間の転倒が心配される方には、起き上がるときにアラートが鳴るように設定し、訪室をしています。

豊 かな時間を過ごすには、良質な睡眠はその基盤になるので、しっかり眠れるよう日中の活動量を増やしています。週3回のお散歩に加え、本年中にご入居の方は、3か月はリハビリを週3回、無料で受けられます。ほぼ毎日身体を動かすので、入居前よりお元気になる方も多いですよ。ベッドセンサーは、睡眠の時間や深度だけではなく、起き上がるタイミングもわかるので、ご入居者様に合わせてカスタマイズした使い方ができます。例えば、転倒が心配される方には、睡眠から覚醒するタイミングにアラートで知らせるよう設定しています。体動があったときにお部屋に訪問することで、不要な訪室を減らしつつ適切な介助ができ、もし転倒して動けなくなっていたとしても、反応がないことを感知した人感センサーで早期発見が可能です。「誰にも迷惑をかけたくない」と一人でトイレに行こうとされる方も多いのですが、IT技術を活用して、ご入居者様のプライバシーを守りつつ、必要なときに必要なケアを提供できるようにしていきたいと思ひます。

当ホームで快適にお過ごしいただくために、IT技術で何が出来るのかを常に考えていきたいです!



チャームプレミア 柿の木坂 ホーム長 井藤聡美さん



プライベート空間を保つ内扉の効果
介護しやすいように、一般的な居室は共用廊下に面する扉を開けるとすぐに居室が一望できるようになっている。しかし本ホームでは、扉の内側にさらに扉を設けることで、外部からの視線を隠し、プライバシーを確保している

介護付有料老人ホーム チャームプレミア 柿の木坂
所在地 〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂2-14-21
アクセス 東急東横線「都立大学」駅から徒歩12分
0120-453-286
[入居時費用] 0万円~6,240万円
[月額利用料] 244,960円~1,437,960円
●開設日/令和2年4月1日 ●権利形態/利用権方式 ●支払方式/選択方式 ●介護保険/特定施設入居者生活介護(一般型)
●事業所番号/1371005032 ●入居時要件/原則65歳以上の自立、要支援、要介護 ●介護居室/全37室(個室26室、2人部屋11室、定員48名)、面積17.8㎡~40.2㎡ ●介護体制/2:1以上 ●事業主体/株式会社チャーム・ケア・コーポレーション
ウェブサイト



IT技術を活用することで、プライバシーを守りつつ適切な介助ができるようになります。また、訪室しなくてもご入居者の状況がイメージできるので、スタッフの負担も減ります。施設運営者にとっては、ITを導入することでオペレーションの変更が必要ですが、スムーズに導入できるようにサポートが受けられます。